

まちづくり元年シンポジウムを開催

新しい時代の新しい地域自治へ向けて



平成 21 年 12 月 6 日（日）、養父市立ビバホールで「養父市まちづくり元年シンポジウム～新しい時代の新しい地域自治へ向けて～」を開催しました。これは、養父市まちづくり基本条例を制定した今年度を「まちづくり元年」と位置付け、これからの地域自治と協働などについて、ともに考えていただく機会として、市と財団法人自治総合センターの主催で開催したものです。

広瀬市長、北尾議会議長のあいさつの後、基調講演として、NPO 法人神戸まちづくり研究所の野崎隆一さんに「協働によるまちづくりのすすめ」と題してお話いただきました。野崎さんは、まちづくりアドバイザーとして、神戸市を中心に住民主体のまちづくりに携われ、阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワークでの活動経験などから、まちづくりにおける「協働」の必要性を提言されています。

当日会場のビバホールには、約 190 人の市民の参加があり、熱心に聞き入っていました。

野崎さんのお話から

フランスの哲学者レオターの言葉「近代が終わり、大きな物語が始まり、小さく多様な物語が始まる」を引用され、「日本は戦後復興、高度

経済成長など国の大きな目標と国民の目標や願いがほぼ同じで、大きな物語を共有しながら、中央集権で国のコントロールと地方の協力で効率良くやってこれた。しかし近年では、人々の考え方が非常に多様になり、地域の課題やニーズも違ってくるなど、今までのような施策ではうまくいかななくなっている、このことに対し、地域にある多様な考えや願いを上手く取り入れながらまちづくりを進める必要が出てきている。行政と地域住民との役割分担という考

え方、また行政が施策や計画をつくることに対し、住民は参加、参画していくことが不可欠な時代になっている」とまちづくりに協働が必要であることの背景について話されました。

また、もうひとつ地域が直面する今という時代について人口減少社会の到来の中、成長や発展で推し量る価値観から持続可能性（サステナビリティ）を大切にする価値観へ物差しを変える必要性についてふれられ、これからの地域社会は「人間サイズのまちづくり」、「スローライフ」、「スローブーズ」などをキーワードにした持続可能な地域社会へシフトしていくことが求められていることについて話されました。

このような時代認識のなか、地域コミュニティについては



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。



▶野崎隆一さんによる基調講演

「地域住民の総意をまとめることが非常に大切で、いわば地域民主主義のため、参加の機会の創出、女性の参画などを進め、連携・協力するネットワーク型の社会を作り上げれば、今まであった組織が苦しい状況になっても、決して地域コミュニティが衰退するといったことにならないのではないか」と話され、最後に「大きくてシンプルなものもろいけど、小さくて複合的なものは強い」と地域自治のあり方に関するヒントを示され講演を締めくくられました。

またシンポジウムの後半では、まちづくり基本条例制定ワークショップのアドバイザーを務めていただいたスタヂオ・カタリストの松原永季さんをコーディネーターとして迎え、野崎隆一さん（NPO法人神戸まちづくり研究所）、木南晴太さん（兵庫県企画県民部政策室ビジョン担当）、森本美弥子さん（養父市社会福祉協議会地域福祉課長）、砂治國隆さん（養父市地域ケア協議委員長、スポーツクラブ21のおおや副会長）、岩佐昌晴さん（養父市まちづくり基本条例ワークショップ委員、出合校区協議会会長、鶴縄区長）、高岡けい子さん（まちづくり基本条例ワークショップ委員、大森ボランティアグループ花みずき会代表、民生委員）の6名によるパネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは、実際にまちづくりの現場では、どのような課題があり、これからどのようなことが大事になってくるのかが話し合われました。各地域では、少子高齢化、家庭機能の低下、地域コミュニティの希薄化が進んでいることが課題としてあげられました。また、単一

の区に目を向けると、昔からの伝統行事の継続、継承や日役や冠婚葬祭などのやり繰り役員選任などに苦勞されていることも報告されました。

パネルディスカッションでの意見や提言

- ❖ 高齢者の社会参加が大変重要。それぞれが自分のためにも早くから社会参加を進めておくことが大事で、地域は話しやすい、入りやすい環境づくりをしておく必要がある。
- ❖ これは人づくりである。
- ❖ 生活する上で抱える問題やこれから迫ってくる危機にも目を向けて、その課題や解決策を一緒に考えられる顔が見えるような関係づくりが大切である。
- ❖ これからの地域づくりには、女性の役割がますます重要である。
- ❖ 多様な意見をきちんと聞き、考えや思いを擦り合わせまとめることができ、任せるところは任せられるリーダーがこれからは必要ではないか。
- ❖ 自発的なボランティア活動なども区と連携することで、活動の広がりが出たり継続性が出たりした。連携した取り

- ❖ 組みが大切である。
- ❖ 地方自治とは補完性の原理といわれる。市町村があつて、補完する県があり、国がある。地域でも家族があつて、集落があつて補完しあう。集落で補完できないところをおおむね小学校区を単位とした地域自治組織が担っていくことが求められる。さらに、家族が以前何が出来ていて、今何が出来なくなっているのかといった家族にももっと着目していく必要がある。
- ❖ 「何かやらねば」と思っている人は、実はたくさんいる。



▶ボーイスカウト八鹿第一団による養父市民憲章の唱和

今後の養父市は…

市では、まちづくり基本条例の理念のもと、市民同士、そして市民と市の協働のまちづくりを一層進めるため、小学校区（旧を含む）を単位とした地域自治組織の設立に向けて取り組んでいるところです。今後も協働を一層推進するため、シンポジウムや地域学習会など共に学んだり、考えたりする機会を設け、みんなの知恵と力を持ち寄りながらまちづくりを進めます。

ただやらねばならない活動だけでなく、やりたいことをやるというところで少し前に出ればよい。

❖ まちづくりに終わりは無い。地域自治組織を立ち上げて、イベントでなく持続可能なプロジェクトが必要だ。地域の中で助け合ったり、地産地消というところで物を融通しあったり、少しなりともビジネスとしてお金の循環につながる活動により持続させていくことが大切ではないか。面白いプロジェクトを考えよう。